

2025 年度 東京科学大学医歯学系オープンキャンパスにおけるピアサポーター個別相談 報告書

東京科学大学 医歯学系ピアサポーター

1. はじめに

本報告書は、医歯学系オープンキャンパスにおけるピアサポーター個別相談会の参加者を対象に実施したアンケート結果をまとめたものです。参加者の属性、相談内容、満足度を分析し、今後の活動改善に資することを目的とします。

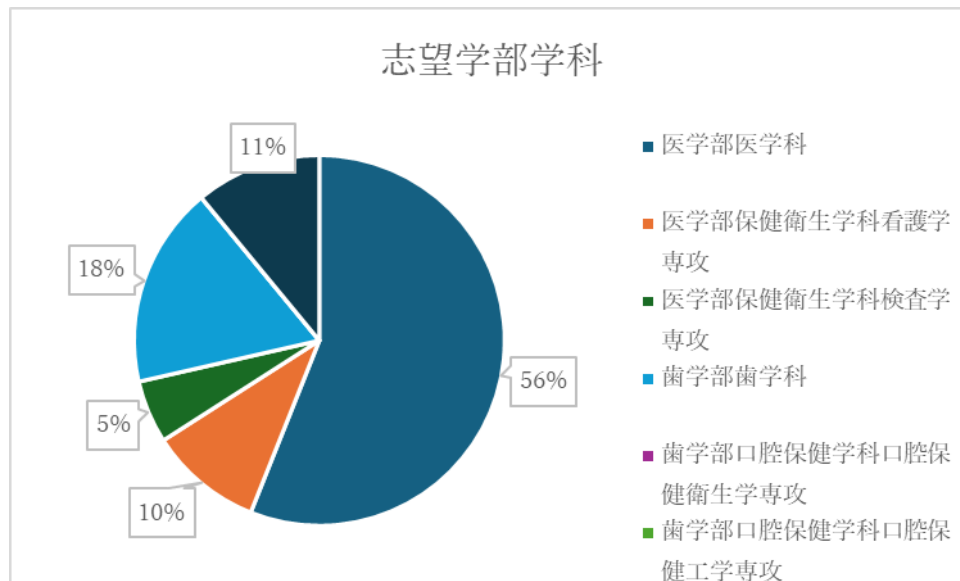
2. 実施概要

- ・実施期間: 2025 年 7 月 31 日～8 月 1 日
- ・実施場所・時間: 東京科学大学湯島キャンパス M&D タワー26 階ファカルティラウンジ
10:00～16:00
東京科学大学湯島キャンパス M&D タワー2 階ホワイエ
16:00～17:00
- ・来場者数: 1 日目 73 組、2 日目 83 組（合計 156 組）
- ・有効回答数: 84 件(7 月 31 日…43 件・8 月 1 日…41 件)
- ・回答率: 約 53.8%（84 件 / 156 組）
- ・当日使用した主な配布資料:
東京科学大学 大学案内 2025 :
<https://www.tmd.ac.jp/nponeews.jp/article/peer-support/8>
ピアサポーター学生が語るリアルな大学生活 :
https://www.tmd.ac.jp/files/topics/63624_ext_04_1.pdf

3. 回答者の属性

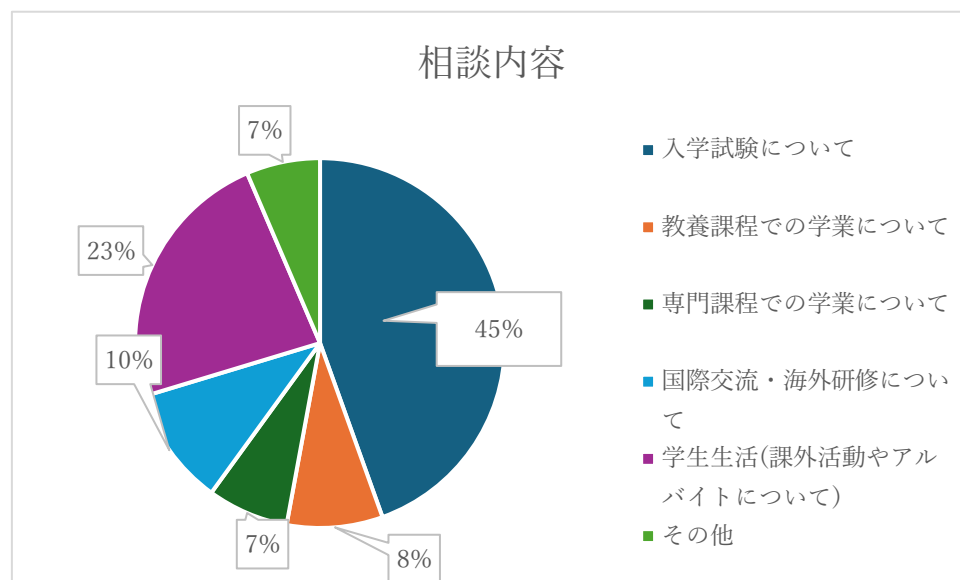
3-1. 志望学部・学科(複数選択可)

相談者の志望先は医学部医学科が最も多く、全体の過半数（54.8%）を占めました。次いで歯学部歯学科（21.4%）が多く、医歯学系への関心の高さが伺えます。



3-2. 相談内容(複数選択可)

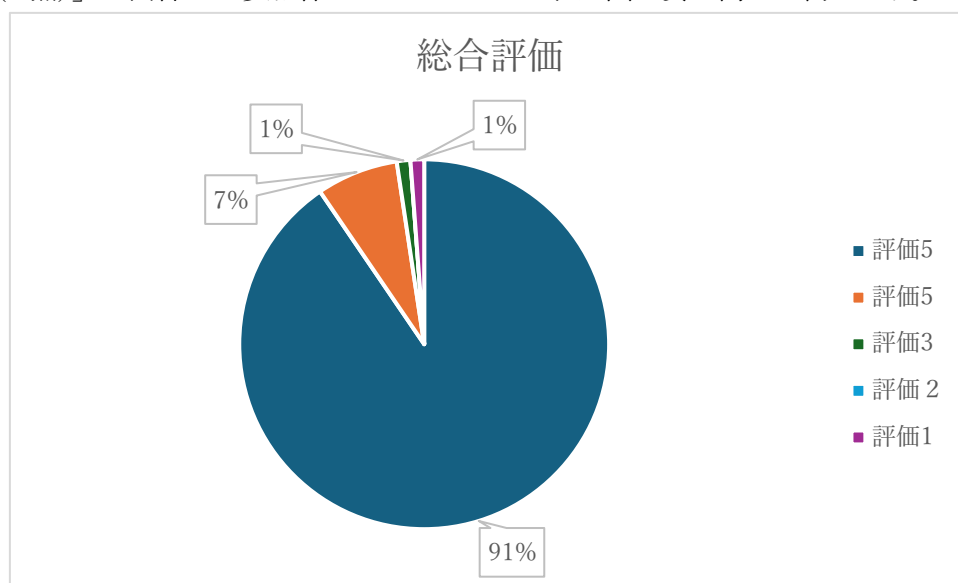
相談内容は「入学試験について」が79件と圧倒的に多く、参加者の最大の関心事であることが明確になりました。次いで「学生生活」「専門課程での学業」と続き、入学後の具体的なイメージを知りたいというニーズも高いことがわかります。(複数回答可)



4. 相談会の評価

4-1. 総合満足度

相談会の総合満足度は5段階評価で平均 4.86 点 と非常に高い結果となりました。「大変満足（5点）」と回答した参加者が 85.7%にのぼり、企画の質の高さが伺えます。



4-2. 良かった点（自由記述の要約）

満足度の主な理由として、以下の3点が挙げられました。

対応の質: ピアサポーターが親身かつ丁寧に、自身の経験を交えながら回答していた点が高く評価されました。

情報の価値: パンフレット等では得られない、学生目線の具体的な情報（入試対策、大学生活の実際など）が有益であったとの声が多数ありました。

モチベーション向上: 在学生との交流を通じて、大学への憧れや学習意欲が高まったという意見が多く見られました。

4-3. 改善点（自由記述の要約）

改善点に関する指摘は非常に少数でしたが、主に運営面に関する意見が寄せられました。

運営: 「担当の学生が時間になってもいなかった」「待ち時間があった」といった、当日の人員配置や時間管理に関する意見がありました。

情報: 「より詳細なデータや資料があると嬉しい」といった、提供情報の拡充を望む声もありました。

5. 総括と今後の提案

総括

本相談会は、参加者から極めて高い満足度を得ており、特にピアサポーターの丁寧な対応と、学生のリアルな声が聞けるという点が高く評価されました。参加者の進学に対するモチベーション向上にも大きく寄与しており、大変有意義なイベントであったと結論付けられます。

今後の提案

今回の結果を踏まえ、今後の活動をさらに向上させるため、以下の3点を提案します。

1. 運営体制の強化による待ち時間の緩和

課題:

相談者が集中した医学科において顕著な待ち時間が発生しました。特に、待ち時間が長いために参加者が一度列を離れるケースがあり、見かけ上の待機者数と実質的な待ち時間に乖離が生じるという問題が見受けられました。

提案:

この課題に対し、次年度は以下の対策を実施します。

待ち時間の可視化:

各学科ブースの前にホワイトボードを設置し、リアルタイムの待ち時間を明示することで、参加者が見通しを立てられるようにします。

待機列の分離:

医学科と他学科の待機列を明確に分離・案内し、他学科志望者への影響を最小限に抑え、全体の流れをスムーズにします。

相談体制の強化:

待機者が特に集中した医学科所属のピアサポーターを増員し、相談の回転率を向上させます。

2. 情報提供ツールの拡充による相談の効率化

課題:

「具体的な数値を示す資料が欲しかった」との意見が寄せられ、口頭での説明だけでは伝えきれない情報があること、またそれが相談時間の長時間化の一因となっている可能性が示唆されました。

提案:

よくある質問をまとめた Q&A シートや、学生生活の費用例といった具体的なデータ資料を事前に準備・配布します。これにより、相談内容の質を高めると同時に、一人当たりの相談時間を短縮し、結果として待ち時間の緩和にも繋がります。

3. ナレッジ共有の促進による対応品質の向上

課題:

ピアサポーター個人の経験やスキルによって、対応の品質にばらつきが生じる可能性があります。

提案:

活動報告会などを通じて、参加者から高評価を得た対応事例（効果的な説明方法や配慮の行き届いた言動など）をサポーター間で共有する機会を設けます。これにより、全体の対応品質の標準化と向上を図ります。